第17回熊本大学附属図書館特殊資料展・講演会より

永青文庫による細川家(藩)の大名屋敷

北　野　隆

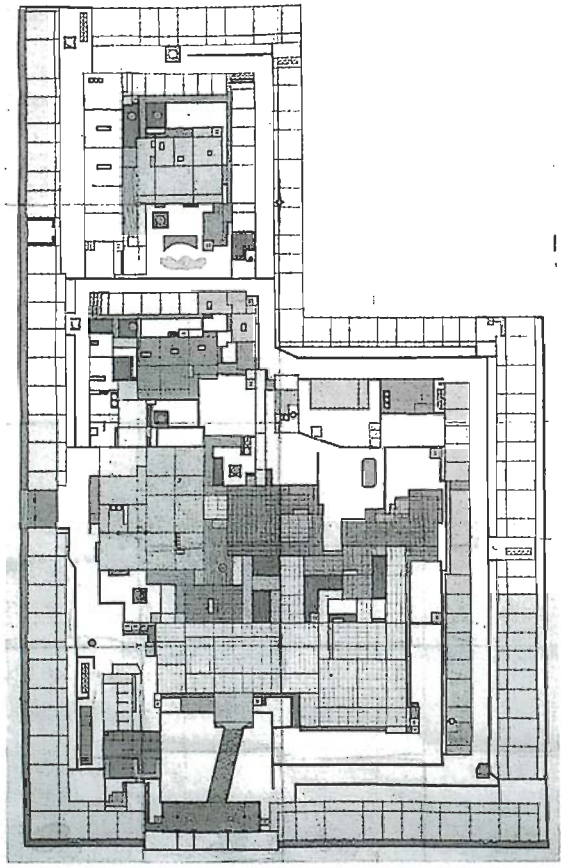
江戸時代の各藩の大名屋敷の史料は、全国の図書館や大学図書館に保存されている。これら各地に残されている大名屋敷の史料の内で、江戸時代中期以前(1700年)の史料が継続的に見られるのは、細川家の大名屋敷と山口県立図書館の毛利家文書ぐらいだろう。そこで、今回は特に江戸時代初期、徳川将軍では家康、秀忠、家光時代の細川家の江戸屋敷について展示した。細川家が江戸に屋敷地を拝領するのは、慶長8年(1603)頃であった。この地は江戸城の南の「龍口上屋敷」であった。「龍口上屋敷」については寛永10年(1633)の絵図が残されている。絵図は台紙の上に1間毎に縦横に線を引いてグリッドをつくり、その上に建物の平面を描いた赤、青、黄土などの色紙を貼っている。この絵図によると、「龍口上屋敷」の主要殿舎は式台―広間―書院―御座ノ間から成っていた。

寛永年間は三代将軍・家光が盛んに「御成」を行った時期である。細川家でも三代将軍・家光の「御成」を「龍口上屋敷」で行うことを考えるが、敷地の狭さから「御成屋敷」が作られなかった。そこで、敷地の広い芝下屋敷に「御成屋敷」を計画した。この「御成屋敷」の計画には、幕府の大工大棟梁・甲良豊後が当たった。主要な御殿は、数寄屋―鎖ノ間―御成御殿―大広間などからなっている。それは当時の御成の式次第が、茶の湯―道具拝観―式三献―能三番―饗応―能であり、この儀式に建物も対応していたものと思われる。11月3日の講演会では、この御成の式次第が天皇の大嘗祭の儀式に似ていることを説明した。資料展示には、この他、江戸時代中期・後期の龍口上屋敷、広大な庭園を備えた寛文年間の戸越屋敷など細川家の江戸屋敷を紹介し、国許屋敷では遺構が存在する花畑屋敷、水前寺成趣園などが展示された。

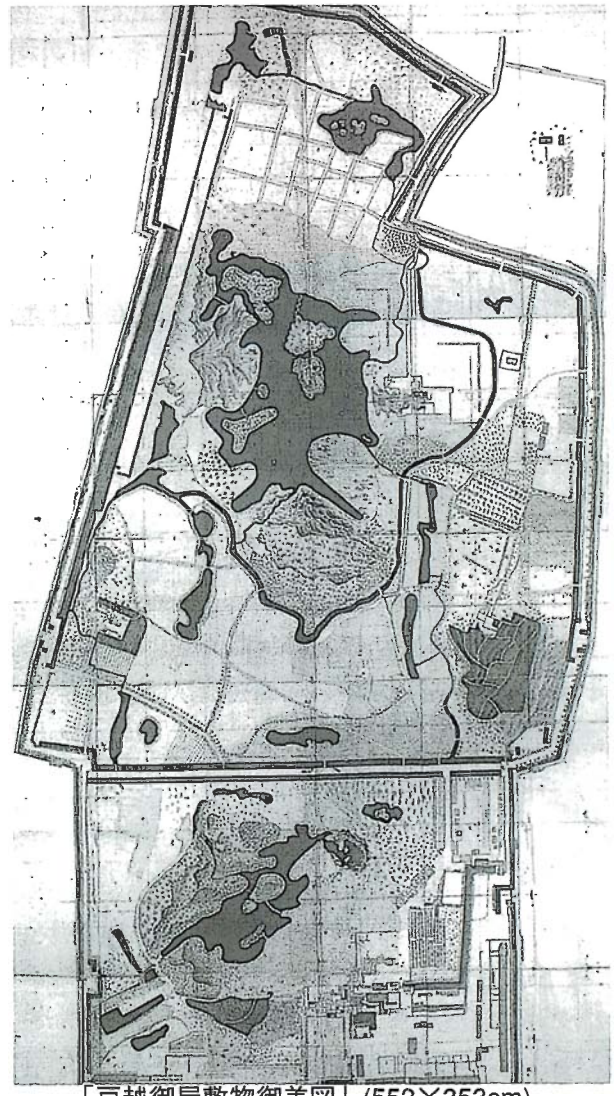
熊本大学図書館に保管される「永青文庫」は、近世史をはじめ、建築史、茶道史、庭園史などいろいろな分野に貢献する貴重な学術史料である。

（きたの　たかし　工学部教授）

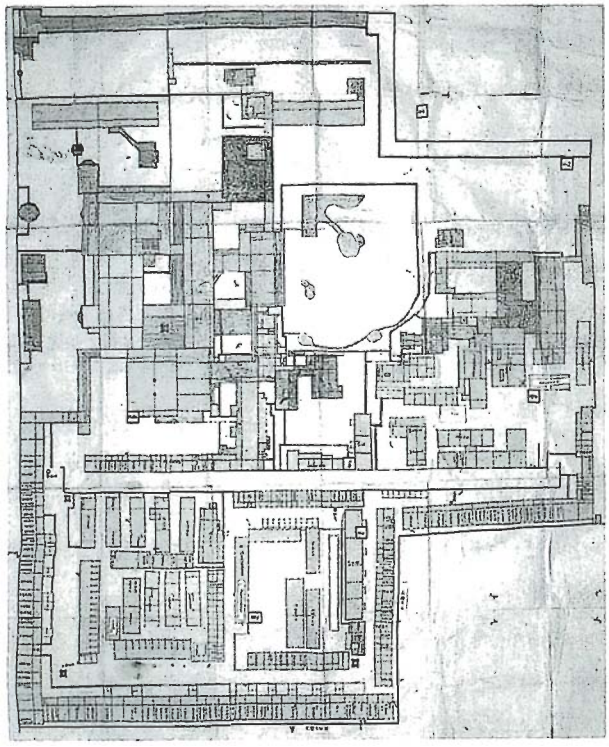
平成12年11月の講演会及び特殊資料展の様子。次頁は展示資料の一部。



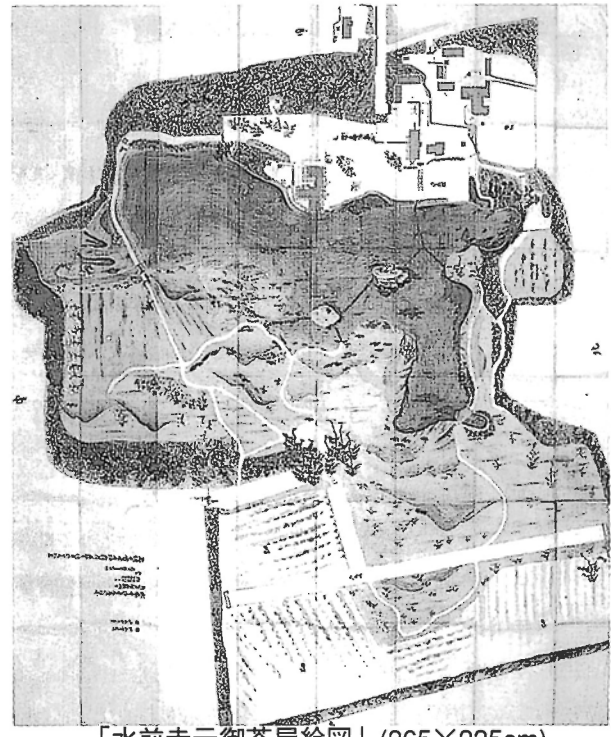
「瀧口御屋敷之図」(106×167cm)
寛永10年(1633年）の瀧口上屋敷



「戸越御屋敷惣御差図」(553×353cm)
寛文年間に完成した別荘、戸越屋敷



「芝御屋敷絵図」(209×253cm)
芝の増上寺近くの下屋敷



「水前寺元御茶屋絵図」(265×225cm)
国許屋敷としての水前寺成趣園